

# ミステリ読書案内

2022. 6. 22 発行元

第368号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## ライト文芸ミステリ最新刊から

最近出版されたライト文芸ミステリの本を3冊取り上げる。とは書いてみたものの、「最新」でも「ライト」でもない作品になりそうである。見出しにピッタリ合ったミステリを選ぶのが難しくなっている。

### 「最新」でも「ライト」でもなく…

最新の作品で「これは！」と思えるものに出会えない。見出しには「ライト系」で「最新の」とは書いてみたものの、少し適合しない作品を取り上げざるを得ない。すみません。いつも書いているように「ライト文芸ミステリ」に明確な定義があるわけではないので、大目に見てもらえばありがたい。

望月麻衣を毎回のように取り上

げているが、読者は女性の方が多いのだろうか。たぶんそうなのだろうなあ。登場してくる男性はイケメン揃いで恋愛絡みの話題・展開も多いから、作品作りのねらいとして想定しているのは女子高校生ぐらいなのだろうか。

今回取り上げた3作はいずれも主人公が若い女性になっている。小道具の取り上げ方や細かなこだわりの部分の描写にも私が思うところとは違う要素がある。

### 久住四季『異常心理犯罪捜査官・氷膳莉花・怪物のささやき』

2020年10月にメディアワークス文庫から出た本。「ライト文芸ミステリ」と呼んでいいのかわかりにくい。メディアワークス文庫から出ているので、読み手は若者を想定しているのだと思う。(久住作品はここから出ているものが多い) 中身は猟奇犯罪で、特に「ライト」ではない。まあ、キャラクター重視の展開であることには賛成する。

東京で女性の連続殺人が発生し、いずれも内臓が取り出されているという異常なものだった。主人公の氷膳莉花は新人刑事だが、皆川管理官から極秘捜査を頼まれる。それは別の殺人事件に関わったことで既に死刑判決を受けている犯罪心理学者の阿良谷静という「怪物」に警察医療センターで会って、独自のプロファイリングをしてもらうためだった。この阿良谷と莉花の息詰まるやり取りがこの作品のメインで、ヒントをもらった莉花は単独で動き回っては窮地に追い込まれるというハラハラドキドキ連続の展開。出来のレベルは高い。

### 高殿円『シャーリー・ホームズと鮮色の囃聲』

2014年早川書房。現在はハヤカワ文庫JAに入っている。表紙を開けると「注：このお話はコナン・ドイルのホームズ譚を現代に舞台を移しキャラクターの性別を女性にさせたものです」と書いてあるので、女性版ホームズ・パステイッシュとってしまうのだが、そこに罫がある。

2012年。アフガニスタンの軍医から除隊した女医のジョー・ワトソンが職探しの中で、たまたまシャーリー・ホームズとフラットシェアをすることになった。ロンドン、ベイカー街221b。なんとシャーリーの心臓は……になっており、ミセス・ハドソンは……になっていた。レストレード警部まで女性になっていた。この辺の設定はなかなか楽しませてくれる。兄のマイクロフト替わりの「姉」の役目も重要だ。

人物像作りにだいぶ筆を費やしたので、事件にたどり着くのはかなりページが進んでから。こちらも女性の連続殺人事件。一見、一酸化炭素中毒のようにみえる犯行なのだが…。そこから先は予想外の方向に進んでいく。

ワトソンはホームズの捜査を助け、その記録者となることができるのだろうか…。ハーレクイン作家にはもうずでになっているようだけれども。

(シャーリー・ホームズの活躍には続編が2020年に出ているようである。)

### 望月麻衣 『京都寺町三条のホームズ0』と『18』

『0・旅のはじまり』が3月に、『18・お嬢様のミッション』が4月に双葉文庫から出た。『0・旅のはじまり』の方は、京都の見どころを紹介するガイドブックと清貴と葵の出会いの頃のエピソードを並べた本で、「ミステリ」と言うほどの中身ではない。ファンサービスの一冊という作りである。

『18・お嬢様のミッション』が物語としては最新版になる。清隆は小松探偵事務所まで休業中。そこへ香港の大企業代表の令嬢が京都観光のイケメン・ガイドを求めているとの依頼が入る。小松所長は料金につられて引き受けてしまう。令嬢には身の安全を守るための別のボディガードの集団が張り付いているとのこと。清隆は嫌々ながらガイドの役目をこなすのだが…。途中からは葵の手を借りることに…。しかし、京都案内の途中で令嬢が誘拐されてしまう事件が起きる。救い出すことができるのか…。

複雑な仕掛けはないけれども、ミステリとしての盛り上がりを作ることができた作品。及第点。